

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	こころの健康づくり推進事業				事業番号	011-206	
担当部署名	健康福祉局	局	健康部	部	精神保健課	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5)障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現		
		有	取組の方向性	①相談支援体制の充実・強化					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	—	目標値	—		
			無	現状値	—				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—	目標値	—		

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	昭和 49 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律		

事業の概要

5	事業の実施主体	本庁、出先機関、各区					
6	事業の対象	こころの健康に悩みを持つ市民及びその家族等				対象数	単位
						-	-
7	事業の目的	精神疾患やその治療についての相談指導に応じ、市民のこころの健康保持・増進や精神疾患に関する相談等を実施することでメンタルヘルスの維持向上を図る。また、精神障害者の社会復帰・社会参加の促進を目的とする。					
8	事業内容	・保健センターで精神保健福祉士や保健師が相談に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行う。 主な相談内容は、こころの健康やアルコール問題に関する医療機関の受診及び社会復帰等である。 ・精神科医師による定例の精神保健福祉相談を実施（予約制）。					
		※国・府の基準より上回って実施した内容					
9	主な支出先	—					
10	公民連携・協働事業	—					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
	精神科医療に関する相談延件数	件		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
			目標値	—	—	—	—
			実績値	9,174	10,083		
達成率	—	—					
当該指標を選定した理由		こころの健康維持、社会復帰のためには、適切な医療につながる事が重要であるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		市民等からの相談対応延件数のうち精神科医療に関する相談延件数であり、目標の設定にはなじまない。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
	精神保健福祉相談延件数	件		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目標値	—	—	—	
			実績値	26,254	28,016		
	達成率	—	—				
	当該指標を選定した理由		様々なこころの健康に関する相談に対応し、必要に応じて適切な支援につなげることができる機会となるため。				
目標値の設定根拠・算出方法		市民等からのこころの健康に関する相談対応延件数であり、目標の設定にはなじまない。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名		こころの健康づくり推進事業				事業番号		011-206	
-------	--	---------------	--	--	--	------	--	---------	--

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。(単位：千円)

13	財源内訳	項目	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
			決算		決算		当初予算		当初予算		
		事業費 (a)		12,357		15,144		19,586		17,766	20,931
		国支出金		0		0		0		0	0
		府支出金		0		0		0		0	0
		市債		0		0		0		0	0
		その他 ()		0		0		0		0	0
	受益者負担金(使用料、手数料等)		0		0		0		0	0	
一般財源		12,357		15,144		19,586		17,766	20,931		
14 人件費 (b)		138,825		138,362		143,624		144,000	149,220		
15 年間経費 (c)=(a)+(b)		151,182		153,506		163,210		161,766	170,151		

事業費の内訳 (単位：千円)

16	事業費内訳	項目	年度		事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
		医師報酬	R7	決算	5,684	5,684	消耗品費	R7	決算	494	494
			R8	予算	7,560	7,560		R8	予算	544	544
		会計年度任用職員報酬	R7	決算	7,633	7,633	印刷製本費	R7	決算	34	34
			R8	予算	8,148	8,148		R8	予算	51	51
		期末手当 (会計年度任用職員)	R7	決算	2,557	2,557	精神障害者地域交流会負担金	R7	決算	216	216
			R8	予算	3,092	3,092		R8	予算	216	216
		謝礼金	R7	決算	245	245	精神保健福祉セミナー開催負担金	R7	決算	138	138
			R8	予算	277	277		R8	予算	138	138
		費用弁償 (通勤費)	R7	決算	664	664	その他	R7	決算	101	101
			R8	予算	675	675		R8	予算	230	230

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

17	区分	単位	令和6年度	令和7年度
	① 精神保健福祉相談員による相談対応	件	26,254	28,016
	② 上記①にかかる年間経費	千円	131,200	131,200
	③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	4,997	4,683
算出についての説明等		精神保健福祉相談員による相談件数に対する人件費を計上。		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18

各保健センターでは、精神保健福祉士や保健師が、こころの健康やアルコール関連問題等に関する相談に応じており、医療機関の受診や社会復帰に向けた支援を行い、必要に応じて関係機関の紹介及び連絡調整を実施している。
令和7年度の相談延件数は28,016件であり、このうち複数回の対応を要する精神科医療に関する相談は全体の約4割を占めている。
専門職である精神保健福祉士や保健師による対応に加え、精神科医師による相談を活用することで、未治療者や治療中断者へのアプローチなど、専門性の高い医療相談支援を実施しており、その有効性は高いと考えられる。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19

ストレスの多い現代社会において、思春期の不登校、摂食障害、壮年期のうつ病、職場不適応、アルコール依存症、老年期の認知症など、こころの健康は各年代で深刻な問題となっている。加えて、近年多発する地震や豪雨等の自然災害の影響により、不安やストレスを抱えた生活の長期化が心身の不調を招く場合もあり、心のケアの必要性は一層高まっている。
本市では、精神保健福祉士を常勤職員として長年配置し相談支援体制を構築してきた中で知識や経験の蓄積が図られている。多様化・複雑化する相談に対し、精神保健福祉士が精神科医師や保健師と連携し、多角的な視点から有効かつ実効性のある支援を検討し実施している。更に、家庭訪問や受診同伴等のアウトリーチ支援や危機介入など積極的な支援により、必要な医療へのつなぎを強化し、精神障害者の社会復帰を促進している。
以上のことから、本取組は堺市基本計画2025における「相談支援体制の充実・強化」に寄与したものと考える。

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見 (前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載)

20

必要性

■ 高い
□ 低い

有効性

■ 高い
□ 低い

近年、こころの健康に関する課題は全年代で顕在化しており、未治療者や孤独・孤立状態にある者への対応も求められていることから、専門的な相談支援体制の必要性は高い。本事業は、専門職及び精神科医と連携した相談やアウトリーチ支援により適切な医療や支援につないでおり、相談件数も増加していることから有効性は高い。